

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス小祿教室		
○保護者評価実施期間	令和 8年 3月 1日		～ 令和 8年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 1日		～ 令和 8年 3月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士や児童指導員、運動療育指導員及び作業療法士など専門的な知識を持つ職員を配置し、多職種の視点を活かした支援体制を整えています。	・支援方法や対応について定期的な検討の場を設け、専門的視点を取り入れながら職員の資質向上に努めています。	・定期的な検討会やミーティングの実施に加え、専門性向上のため必要に応じて外部講師を招いて研修の機会を設けるなど、職員一人ひとりの学びを深めていけるよう取り組んでいます。
2	・職員間の情報共有や意見交換を積極的に行い、円滑なコミュニケーションによる働きやすい環境づくりに努めています。	・日々の情報共有や管理者との面談を通して職員の意見を把握し、組織運営に反映できるよう取り組んでいます。	・職員が意見を共有しやすい職場の雰囲気作りに努め、より良い組織づくりを進めています。
3	・保護者交流会や療育参観等の機会を設け、児童支援に加えて保護者支援の充実にも取り組んでいます。	・安心して利用できる環境づくりを意識し、保護者との信頼関係構築に努めています。	・保護者交流会や療育参観の他に、定期的に保護者との面談の機会を提供することで保護者支援の充実を図っていききたいと思えます。 ・きょうだい児や地域との交流の機会を設け地域に貢献できる教室づくりに取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園との連携や、地域の子ども達との交流機会については、十分とは言えない面があると考えています。	・保育所や認定こども園に対して、事業所が行っている発達支援の取り組み等への周知が十分でない可能性があります。	・モニタリングや担当者会議を通して事業所としての取り組みや支援方法など情報共有を行い、保育所や認定こども園等との連携を深め、交流の場を設ける機会が作れないか相談検討していきます。 ・地域の児童館と連携を図りながら児童館の行事に参加を検討していきます。
2	・災害時等の対応に関する説明について、保護者や職員への周知が行き届いてない部分がある可能性があります。	・マニュアルの整備は完了していますが、保護者や職員へ周知する機会が十分でない可能性があります。	・保護者に対しては資料の配布や公式ライン等で周知する機会を設けていきたいと考えています。また、職員全体で非常時の対策について確認するための時間を確保し、避難訓練以外でも対応や手順など共通理解を深める機会を設けていきます。
3	・情報共有や業務効率化に課題があり、情報管理の一元化やIT・AIツールの活用による業務・支援の質向上がより一層求められると考えています。	・情報共有や業務管理において複数の方法が併用されているため、情報集約や確認に時間を要する場面が見られます。また、システムやツールの運用方法の整理が十分でないことが、業務効率化を進める上での要因と考えられます。	・HUGシステムのさらなる活用による情報管理の一元化とIT・AI活用を進め、業務効率化を図り支援の質向上につなげていきます。